

全国の公文書館等へのアンケート結果

デジタルアーカイブ化への対応状況に関するアンケート集計結果 1 (全国公文書館等)

このアンケートは、地方公文書館等のデジタルアーカイブ化の最新の進捗状況を把握し、当館が検討している全国公文書館等のデジタルアーカイブ化及び連携を推進するために調査したものです。

アンケート実施期間：平成18年6月26日～7月10日

アンケート対象：全国公文書館等 48機関

アンケート回収率：100%

[設問1] 所蔵資料の目録情報のデータ整備状況について、次の中から当てはまるものをお選び下さい。

選択肢	回答数
ア 所蔵資料の全てについて、目録情報がデータ化されている。	4
イ 所蔵資料の大部分について、目録情報がデータ化されている。	19
ウ 所蔵資料の一部について、目録情報がデータ化されている。	18
エ 所蔵資料の目録情報は、いわゆる「紙目録」のみである。	7
計	48

[設問2] (設問1でア～ウを選択した方のみ)

目録データの文字コード、記録史料記述方式及び記述項目と内容について、当てはまるものを選び、その概要を記述下さい。また、可能であれば、目録データ定義に関する資料等、記述項目と内容が分かる部分のみで構いませんので、添付してください。

目録データの文字コード		記録史料記述方式		記述項目等
選択肢	回答数	選択肢	回答数	回答数
ア Unicode	5	ア ISAD (G)	1	28
イ EUC-JP	2	イ EAD2002	0	* 内容 省略
ウ JIS	9	ウ 独自方式	25	
エ Shift-JIS	17	エ その他	6	
オ その他	3	計	32	
計	36			

[設問 3] 目録データベースについて、次の中から当てはまるものをお選びください。

選択肢	回答数
ア 運用中であり、インターネットを通じて利用が可能である。	16
イ 運用中であり、館内のみで利用が可能である。	12
ウ 構築中である。	1
エ 検討中である。	13
オ 検討していない。	6
計	48

[設問 4] (設問 3 でアを選択した方のみ)

インターネット上の目録データベースは、他のデータベースと横断的に検索可能かどうか。横断検索が可能であれば、その仕様（プロトコル等）、接続先について、その概要をご記入願います。

回答内容	回答数
横断検索が可能な館（プロトコル：Z39.50、接続先：国立公文書館）	1
不可能な館	15
計	16

[設問 5] (設問 3 でイまたはウを選択した方のみ)

運用中（館内のみ利用可能）、或いは構築中の目録データベースに関し、インターネット上での公開、更に横断検索システムの導入に関し、今後の計画、もしくは構想等があるか。ある場合はその仕様について、無い場合はその理由について、概要をご記入下さい。

回答内容	回答数
インターネット公開を予定	1
インターネット公開を検討中（回答例：所蔵者の許諾や個人情報保護上の課題を検討中。）	7
インターネット公開の計画や構想はない。（回答例：予算上の制約）	5
計	13

[設問6] 所蔵資料のデジタル化（資料画像の作成）について次の中から当てはまるものをお選びください。

選択肢	回答数
ア 目録データベースの検索と資料のデジタル画像が連携するデジタルアーカイブを構築している。	3
イ 所蔵資料のデジタル化を進めており、インターネットを通じて公開している。	2
ウ 所蔵資料のデジタル化を進めており、館内のみで公開している。	4
エ 構築中である。	3
オ 検討中である。	17
カ 検討していない。	19
計	48

[設問7] (設問6でア～エを選択した方のみ)

所蔵資料のデジタル化にあたって、貴館で採用した画像形式の仕様、選択の理由等、その概要をご記入願います。

画像形式	選択の理由（概要）	採用延数
JPEG	汎用性。特別なプラグインが不要なため。長期継続運用が可能。利用者が操作しやすい。	11
TIFF	汎用性。無圧縮を選択でき、画像劣化が避けられるため。	8
RAW	汎用性。保管用として。	1
ZOOMA	高解像度のデータ利用のため。	1
PDF	記述無し。	1
GIF	記述無し。	1

* 回答館、14館。目的別を理由に、複数フォーマットを併用する館あり。

[設問8] (設問6でア～エを選択した方のみ)

その他、デジタルアーカイブ関連の取り組みを行っている場合は、その内容をご記入願います。

(回答の概要)

- ・電子文書中の歴史的資料に関し、PDF化データと連携した目録データベースの公開準備。
- ・フルテキスト化、写真や地図、絵図、フィルム等のデジタル化。
- ・映像資料の試験的な配信を予定。
- ・ホームページ上での資料関連情報の整備、google等検索エンジンの利用。

* 回答館、8館。

[設問9] 貴館におけるデジタルアーカイブ化の課題とは何か。具体的な事例を含め、ご記入下さい。

(回答の概要)

- ・ 全般的な課題：予算措置、事業体制に課題。専門知識・技術情報の不足。
- ・ 具体的な課題：資料の所有者の承認、個人情報保護上の観点、公開制限箇所取り扱い等。
電子的記録への対応、行政文書管理システムとの連携。
目録データの整備、利便性の向上（検索システムの改善やメタデータの充実）。
画像や動画データの提供、横断検索の導入等。

* 回答館、35館。

[設問10] 貴館におけるデジタルアーカイブ化の推進に関し、当館に求める支援（専門知識を有する要員の派遣、技術的支援等）について、具体的な事例を含め、ご記入下さい。

(回答の概要)

- ・ システムの構築計画、仕様書作成、実際の導入、運営に関し、職員派遣や資料提供等を通じた知識的・技術的支援。
- ・ デジタルアーカイブ化、汎用的なデータベース構築・管理に関するセミナー、講習会等の開催。
- ・ 資料記述方式やデータベース構築、デジタル画像に関し、ある程度の標準・指針の提示。
- ・ 横断検索システムの導入等、個別具体的な事案に関する助言、技術支援。
- ・ 電子文書のマスキング等、新たな課題に関する考え方の提示等。

* 回答館、26館。

[設問12] その他、何かございましたらご自由にご記入下さい。

(回答例)

- ・ 記録史料記述方式のISAD(G)などの知識があるかなど基本的な調査も必要ではないか。基礎知識があって、デジタルアーカイブ運用への第一歩が踏み出せる。
- ・ 電子公文書について、分類保存規定の整備や事務標準化の段階で足踏みしている自治体もある。標準仕様書など、最新情報の提供や意見交換が必要と感じる。
- ・ 目録の標準化（共通化）やプログラムの共同研究、開発、利用等に取り組む必要がある。

* 回答館、10館。

デジタルアーカイブ化への対応状況に関するアンケート集計結果2(受講者)

このアンケートは、平成18年度公文書館実務担当者研究会議の受講者(館)を対象に講義の円滑な進行を図るために開講前に実施したものです。

[設問1] 所蔵資料の目録情報のデータ整備状況について、次の中から当てはまるものをお選び下さい。

選択肢	回答数
ア 所蔵資料の全てについて、目録情報がデータ化されている。	3
イ 所蔵資料の大部分について、目録情報がデータ化されている。	13
ウ 所蔵資料の一部について、目録情報がデータ化されている。	8
エ 所蔵資料の目録情報は、いわゆる「紙目録」のみである。	5
計	29

[設問2] (設問1でア～ウを選択した方のみ)

目録データの文字コード、記録史料記述方式及び記述項目と内容について、当てはまるものを選び、その概要を記述下さい。また、可能であれば、目録データ定義に関する資料等、記述項目と内容が分かる部分のみで構いませんので、添付してください。

目録データの文字コード		記録史料記述方式		記述項目 (省略)
選択肢	回答数	選択肢	回答数	
ア Unicode	2	ア ISAD (G)		
イ EUC-JP	2	イ EAD2002		
ウ JIS	9	ウ 独自方式	19	
エ Shift-JIS	6	エ その他	1	
オ その他	1	イEAD2002ウ独自方式	1	
計	20	計	21	

[設問3] 目録データベースについて、次の中から当てはまるものをお選びください。

選択肢	回答数
ア 運用中であり、インターネットを通じて利用が可能である。	12
イ 運用中であり、館内のみで利用が可能である。	5
ウ 構築中である。	2
エ 検討中である。	5
オ 検討していない。	4
イ 運用中であり、館内のみで利用が可能である。・ウ 構築中である。	1
計	29

[設問 4] (設問 3 でアを選択した方のみ)

インターネット上の目録データベースは、他のデータベースと横断的に検索可能かどうか。横断検索が可能であれば、その仕様（プロトコル等）、接続先について、その概要をご記入願います。

アジア歴史資料センターにて運用中
横断的な検索はできない。
できない。
文書館蔵資料の単独検索のみ
横断的な検索はしていません。
横断的な検索をできていません。
検索不可
可能ではありません。
他機関とのデータベース間を横断的に検索する機能は持っていない。
横断検索は不可能です。
エクセルで作成したデータ一覧を県のホームページからインターネットで公開しているため、 、 については、対応できません。
公開目録は PDF ファイルで提供している。よって、他のデータベースとの横断的な検索はできない仕様となっている。

[設問 5] (設問 3 でイまたはウを選択した方のみ)

運用中（館内のみ利用可能）、或いは構築中の目録データベースに関し、インターネット上での公開、更に横断検索システムの導入に関し、今後の計画、もしくは構想等があるか。ある場合はその仕様について、無い場合はその理由について、概要をご記入下さい。

<ul style="list-style-type: none"> ・インターネット上での公開データについて随時追加中 ・横断検索システムの導入は未定
政治史料課の資料で運用中なのは、日本占領期の史料のみ、国会図書館の OPAC の利用を考える。
平成19年4月よりインターネット上で公開予定。 館内にサーバー（メインサーバー、公開用サーバー）を設置する。一般利用者用、県職員用で閲覧可能なデータを区別する。データの更新は職員が自らエクセルで入力したデータを用いる。 横断検索システムの導入の構想はない。
利用者サービスの向上のため、将来的にはインターネット公開、横断検索の導入が必要であると考えているが、そのためには現行のデータベースの操作性の向上・個人情報保護の立場からの再点検等が必要であり、現在、所蔵資料データベースの整備に取り掛かっているところである。
<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットでの公開は、近い将来できるよう、検討していきたいと思います。 ・横断検索システムは、提携する先と記述方法を合わせるなど、調整すべき課題が多いように思うので、導入は一朝一夕にはいきませんが、いずれ必要となることは明らかなので、長期的視野には入れたいと思います。

インターネット上での公開及び横断検索システム（内部用では統一的な入力システムの導入も）については、いずれも、今後2～3年をメドに順次実施したいと考えています。当研究センターの場合、いわゆる閲覧室のような施設が十分ではないこと、設置当初から情報提供機能の充実がうたわれていたこともあり、インターネット等を通じた資料や情報の提供が求められている、という背景もあります。ただし、その具体的な仕様等については模索中です。

データベース化したいという考えはあるが、プライバシーの問題や、著作権などの問題で可能か検討中である。

[設問6] 所蔵資料のデジタル化（資料画像の作成）について次の中から当てはまるものをお選びください。

選択肢	回答数
ア 目録データベースの検索と資料のデジタル画像が連携するデジタルアーカイブを構築している。	2
イ 所蔵資料のデジタル化を進めており、インターネットを通じて公開している。	4
ウ 所蔵資料のデジタル化を進めており、館内のみで公開している。	3
エ 構築中である。	4
オ 検討中である。	9
カ 検討していない。	7
計	29

[設問7] （設問6でア～エを選択した方のみ）

所蔵資料のデジタル化にあたって、貴館で採用した画像形式の仕様、選択の理由等、その概要をご記入願います。

アジア歴史資料センターにて運用中
・ GIF 又は JPEG ・ 利用が容易
TIFF JPEG2000 『国立国会図書館資料デジタル化の手引き』をご覧ください。 http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/pdf/digitalguide050330.pdf
JPEG を採用。 選択の理由は、これまでに撮影してあった画像が JPEG 形式であったため。 ネット上で公開予定の画像は、河川台帳の付図、戦後新聞報道写真、追加で可能ならば全県航空写真を考えている。
画像形式：TIF 形式、選択の理由：圧縮形式でないことから編集等による画像の劣化が少ないため。
仕様：JPEG、TIFF（閲覧室端末のみ） 選択理由：開発当時もっとも汎用性のある仕様であったから。 概要：古文書調査・寄贈・寄託資料のすべてを撮影（jpeg）する方針で進めてきたが、予算的な制約から一部否撮影部分ができてきている。 インターネットでの公開は、およそ1600年までの資料の約4700ファイル（jpeg） 閲覧室端末にて、明治期県関係新聞11350ファイル（tiff）公開
地籍帳（TIFF）、藩庁文書（TIFF）、地籍図（サム：JPEG/画像：TIFF）
資料をデジタルカメラ TIFF 形式で撮影し、JPEG で公開用画像を作成している。

JPEG 汎用性を考慮 200 K ~ 300 K 程度
画像ファイル形式：JPG 選択の理由：特別なプラグインを要することなく閲覧が可能なため、利用者が操作しやすい、また安定した長期継続運用が可能。
画像データは、コダックのフォト CD (PCD ファイル) 及び Tiff で保存しています。ただし、今後のデータベースや公開に当たって、どの形式を採用するかについては未検討です。
マイクロフィルムからスキャンするものは、マルチ TIFF で行っています。資料によっては複数ページにまたがりますが、それぞれのページをスキャンした複数の画像をひとつのファイルとして管理できるためです。
ホームページを通じて提供する画像データのファイル方式は、JPEG を採用している。その理由は、次の通り。理由 HP に掲載するにあたっての取得作業が容易なこと。理由 一般利用者はインストールしている OS、ソフトに影響されずに画像データを読み込むことができること。

[設問 8] (設問 6 でア～エを選択した方のみ)

その他、デジタルアーカイブ関連の取り組みを行っている場合は、その内容をご記入願います。

デジタルアーカイブのひとつ前の段階で、政治史料課では国会図書館 HP 上で公開しているギャラリー http://www.ndl.go.jp/jp/gallery/index.html という電子展示会(「日本の記憶」「日本国憲法の誕生」「史料にみる日本の近代」等)に資料を提供
現在構築中のシステムの内容 本庁で作成している電子文書の中の歴史的資料をサーバーに保存し、既存の目録と統合してインターネット検索ができるようにする。さらに公開可能な文書は PDF で表示する。
特になし。
・およそ1600年までの資料のフルテキスト化 (txt) ・所蔵写真・フィルムのデジタル化 (jpeg)
当館ホームページに「アーカイブズ (所蔵資料データベース)」として、古写真、絵図、社寺関係資料及び管内地図を、サンプル版として868点公開している。
収集した映像資料のサンプル配信を実施予定
写真資料は JPEG 化し、館内データベースで検索すると画像が見られるようにしています。

[設問 9] 貴館におけるデジタルアーカイブ化の課題とは何か。具体的な事例を含め、ご記入下さい。

デジタルアーカイブ化を含む IT 関連業務 (企画・立案から実施・運用まで) に対する人的体制の脆弱性。
・膨大な史料 ・費用と労力
国会図書館全体のデジタルアーカイブ推進のながれに、追いついていない。
財政逼迫のため実現性が薄いことから、デジタルアーカイブについて検討をしていない。そのため、専門的・技術的知識に乏しい。
開館してまだ5年間経過したが、まだまだ内部的体制や制度、調査が不十分であり、これらを確立する事が優先と考えている。実際、デジタルアーカイブ化を実行するとすると、この逼迫した財政の中でいかに効率よく進められるかが課題になってくると思う。

<p>1. 技術的な問題：情報に精通した職員が不在である。</p> <p>2. 予算的な問題：システム構築の予算措置が難しい。</p> <p>3. 所有権の問題：寄託更新時にデジタルアーカイブ化の承諾を得るようにしているが、これで十分か。</p>
<p>文字資料のデジタル化は、文字をテキストデータにするにしても、画像として扱うにしても、資料が大量にありすぎて、全てデジタル化することは不可能である。</p>
<p>費用的に、本格的なデジタルアーカイブの構築は困難な状況にある。</p> <p>今年度から導入された新たな資料管理システム（図書、文書等に加え、美術品、民具等の所蔵資料も合わせた総合的な資料管理システム）では、1件の資料につき1点のデジタル画像を取り込むことが可能である。このシステムは、美術品、民具等のいわゆる「もの資料」には活用できると考えられるが、行政文書のように、内容のデジタル化が必要なものについては活用の仕方が難しく（簿冊の表紙をデジタル画像で公開しても意味がない）、有効な活用方法を模索している段階である。</p>
<p>1. デジタル化の予算確保</p> <p>2. データの流出や無断使用</p> <p>3. 利用登録及び閲覧手続きの見直し</p> <p>4. 所有者の事前承認手続き</p>
<p>本庁の文書管理システムと連動していないため、電子文書のスムーズな移管と目録作成ができず、すべて職員の手作業となる。（来年度から電子文書の実際の収集作業を始める。）</p> <p>すべての文書に付いている電子情報（書誌情報・決裁情報）と添付の紙資料との関連付け。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現行のデータベースの検索しやすさ、個人情報等保護の観点からの再整備 ・ デジタル画像の閲覧システムの方針、方式をどうするか
<p>公文書館の電子化については、現在目録情報について検索が可能となっているが、公文書情報の電子化については、県全体での取り組むべき行政文書事務の電子化と連携して、電子的記録を収集、選別、保存、閲覧するシステムの中で進める必要があるが、まだそのシステムは進められていない。</p>
<p>インターネット上への本格的なデジタル画像の提供が可能なシステムの更新が課題。</p>
<p>デジタルデータ化した資料（設問7）はすべて館内の閲覧用パソコンでしか、そのデジタル画像を見ることができない。これらをインターネットを通じ閲覧可能にすることが将来的な課題である。</p>
<p>予算の確保が困難で、撮影等を行うことが難しい。作成した資料画像やデジタルアーカイブのシステムについて、今後どのように保守していくか。資料画像のメタデータの充実、翻刻などのテキストデータの附加</p>
<p>事業化に係る予算化</p>
<p>現在、絵図類・写真などの一部についてデジタルアーカイブ化を行っているが、古文書・冊子類に対象を広げる必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 画像の画質と操作性（アクセス速度）のバランス。 ・ 機種依存文字等が含まれるテキストの取り扱い。
<p>デジタルアーカイブ化への対応がされていない。</p>
<p>経費の確保</p>
<p>他館の状況や最新の技術などの情報をあまり取り入れることなく、これまでの方法を踏襲することが多く、資料管理においても、利用者の使い勝手の面からも、立ち遅れたものになっていないか不安です。</p>

既に述べてきたこととも関わりますが、予算（経費）や人員（体制）の問題といった、多くの機関が抱えているであろう課題のほか、当館の場合、資料の内容や形態が多岐にわたることや、縁縁機関とのデータ検索の連携をどのように組んでいくのか（全く同様の業務を行っている機関というものが内外にほとんどない一方で、歴史・文化関係の資料保存利用機関としての連携を考慮すべきかどうか、あるいは関係の諸機関との連携をどうするか、といった問題があります）等の課題があります。
まさにこれからシステムを構築すべく、館内で検討中なので、どのようなスタイルにするか、業者との役割分担はどうすべきか、ISAD(G)・EADとはどういったものか、など、これらすべてが課題と言えます。現在、他機関のシステムに学びつつ、計画を練っているところです。
デジタル化（資料画像の作成）についてはコストの問題。電子文書（パソコン等で電子的に作成され、電子媒体により保存されている文書）については、移管、保存の方法が確立されていないことが問題。

[設問10] 貴館におけるデジタルアーカイブ化の推進に関し、当館に求める支援（専門知識を有する要員の派遣、技術的支援等）について、具体的な事例を含め、ご記入下さい。

・技術、知識の付与
デジタルアーカイブ関連情報の紹介、連絡、交流。
設問9に回答したとおり、支援を求める下地がないので、現段階では特になし。
構築計画から構築までの知識的支援及び技術的支援を職員派遣や電話での対応、資料提示等でしていただきたい。
1. 専門的知識を有する要員派遣の上、具体的なシステム構築・運営に関する情報提供・助言をお願いしたい。 2. システム構築に際し、何らかの助成措置をお願いしたい。
デジタルアーカイブというわけではありませんが、無料検索エンジン（グーグル等）を活用する、全国の公文書館や歴史資料保存期間の資料目録の横断検索システム（別紙案）の共同開発と普及について支援をお願いします。
・利用基準、手続き方法等の資料提供 ・デジタルアーカイブ化に向けた基本講習会の開催
特になし。
・所蔵資料データベース作成やデジタル画像の閲覧についての、ある程度の標準・指針となるものが欲しい。
電子情報の中の個人情報のマスキング等の処理と基本的な考え方
EADなど資料記述の標準的な国際規格に対応するための、また横断検索を可能にするための技術的制度的支援
当館ホームページ上で可能な範囲の所蔵資料紹介ページ（サムネイル画像をクリック 拡大画像と詳しい説明の表示）を作成することを課題としています。ホームページ作成に関する専門知識を有する方の支援があると助かります。
資料画像と資料目録とを連動させ、さらに汎用性のあるデータベースの構築について情報収集を行いたい。当面は、蓄積した資料目録をWebに出すに当たって、どのような形が適切なのかを検討したい。その際に国立公文書館や岡山県立記録資料館に導入されているデータベースシステムの概要・導入コストについてご教示願いたい。
ホームページでのリンク等、技術的支援をお願い致します。
当館の現行のデジタルアーカイブに関して、改善点などアドバイスがいただけると幸いです。

まだ検討（研究）中なので、具体的な要望はありませんが、他館の状況等をお知らせ頂きたいと思います。
直接に人員や技術で支援をお願いすることは考えていませんが、参照させていただく機関として、様々な機械にご教示等をお願いすることがあると思います。
今後、共同公文書館が具体化する中で、支援が必要となってくると思いますので、よろしくお願いいたします。
研修の実施など
上記のような支援が可能ならば、是非お願いしたいです。その他、貴館デジタルアーカイブ・システム構築の具体的な作業の過程などについてもお伺いしたいです。

[設問12] その他、何かございましたらご自由にご記入下さい。

毎回有意義な研修・研究会に参加させていただき感謝申し上げます。
デジタル化の対象資料は絵図・文書群・映像等でよいのか。 大量の紙面文書は、どのようにするのか。
課題が多様で担当部署が決まらない。
先記の通り、当館はこれからシステム構築を始めようとするところなので、システムに関する理論的・実務的側面ともに分からない部分が少なくありません。様々にご教示いただければ幸いです。 * なお、設問1については、当館は紙目録の情報を Microsoft Excel でデータとして管理しており、それを当館ホームページで公開していますが、ここで言う「データ整備状況」とは、いわゆるデータベース的なものを指していると思われましたので、「エ」と回答しました。